

北海道地域最低賃金920円! 過去最大31円の引き上げ

北海道地方最低賃金審議会(以下、最賃審議会)は8月8日、2022年度の北海道最低賃金を現行の889円から31円引き上げ、920円に改正することを確認しました。31円の引き上げは過去最大、本年10月2日発効予定です。

本年度の最賃審議会は、「中央最低賃金審議会目安に関する小委員会」において目安金額が示されない中、同時並行で金額審議が進められました。これは公労使が、昨今の情勢を考慮した結果、最低賃金を引き上げることの必要性や10月の早期発効の重要性について公労使の認識が一致していたものと受け止めるものです。



本年度の審議に際して労働者側は、「コロナ禍にあっても2022年春季生活闘争では加重平均で2%の賃上げが実施された」ことや、「昨今の急速な消費者物価の高騰による労働者の経済的負担が増している」と、さらには地域間格差の是正に取り組み必要性などを強く求めました。

これに対して使用者側は、「中小企業を取り巻く厳しい経営環境は予断を許さない状況」として、慎重な審議を行うべきと主張しました。

審議会での議論は、労使譲らない激しい審議が続く中、公益側から『より早期に全国加重平均1,000円をめざす』に配慮することにも、中賃から示された目安に関する公益委員見解等を総合的に勘案し、31円の引き上げが提案され、最終的に使用者側が反対したものの、公益・労働者側の賛成多数により結審しました。

中央が示した目安30円に1円プラスされた今回の引き上げ額は、「誰もが時給1,000円」となる社会の早期実現に向けた第一歩となり、特に最低賃金近傍で働く者の賃金が改善されるこ

とは影響率を見ても、一定程度前進であると考えられるが、ナショナルミニマム水準として十分とは言えません。

消費者物価の高騰は、我々労働者の生活に大きく影響しており、切り詰めることが出来ない生活必需品の上昇は、最低賃金近傍で働く者の生活を圧迫しています。この物価上昇に対応出来る唯一の方法は、継続的な賃金の引き上げです。

過去最大の引き上げ額となったことは評価するものの、改定額の920円は、2,000時間働いたとしても年収は約184万円にしかならず、十分な改定額とは言えません。

一方で、中小企業や小規模事業者が、継続的に賃金を引き上げるための環境整備も重要です。上昇する企業物価に対応した助成制度や取引の適正化なども社会全体で取り組むべき課題です。

引き続き連合は改正された最低賃金の履行確保、法令遵守、更には中小・小規模事業者が賃上げしやすい環境整備に向けた政府施策の周知と確実な実施、特定(産別)最低賃金の引き上げを強く求めます。

連合北海道札幌地区連合会ホームページ

労働相談ホットライン
フリーダイヤル いこうよ れんごうに
☎ 0120-154-052

QRコードで速報をチェック!

<http://hokkaido.jtuc-rengo.jp/spk-chiku/>

札幌れんごう

札幌市中央区北4条西12丁目ほくろビル2階
編集発行人 野宮 佳則 ☎210-0505

2022年9月5日 448号
連合北海道札幌地区連合会

夏の清掃ボランティア活動 2022 ほかからどらクリーンキャンペーン あそび〜ち石狩

連合運動の重要な取り組みのひとつでもある環境問題。連合石狩地協は、暑い夏に多くの海水浴客で賑わいを見せた石狩浜海水浴場あそび〜ち石狩において、環境問題の意識の醸成やボランティア活動実践の取り組みを深めるべく、清掃ボランティア活動を毎年行っています。



クリーンキャンペーンは、連合石狩地協・石狩ブロック労協・各地区連合等で構成する実行委員会が主催し8月27日実施しました。

組合員と家族を含め268名が夏の終わりを告げる浜風を受けながら、海岸の清掃作業に励みました。例年であれば作業終了後の昼食交流会で、地元石狩地区連合の組合員が準備したジンギスカン・焼き鳥が振舞われていましたが、本年は新型コロナウイルス感染症防止に配慮し、食事提供は行わず、参加者全体で大抽選会を実施しました。賞品を獲得された方は笑顔、物価高対策として用意された参加賞を手にした皆さんも笑顔で帰途につきました。

来年も家族を含めた多くの参加をお待ちしています。



コロナ禍で変化した女性の働き方とその課題! 女性委員会「産別・単組代表者会議」を開催

8月20日(土)、札幌市内にて「産別・単組代表者会議」を3年ぶりに開催し、各組織代表者、地区連合女性委員会幹事20名が参加しました。

事前アンケートや参加者報告では、職場状況や各組合の特徴的な課題が明らかにされました。

また、在宅勤務などの働き方の変化や、コロナ感染関係による特別休暇等の新設など働く環境が整えられている一方で、実際に出勤したときには負担増となってしまうという実態も多く挙げられました。多様な働き方をすすめるためには、まだまだ課題が多く残ります。

コロナ禍における組合活動の工夫についても交流しました。多くの組織から、若者への支援を中心に相談体制を整えたり、レクリエーションなどの代わりに物品の差し

入れをするなど、組合員を少しでも支えるための工夫が報告されました。

最後に、中野渡副委員長が会議全体のまとめを終えました。会議で出された意見は、今後の女性委員会の活動に活かすとともに、地区連合で取り組んでいる札幌市への政策要求にも反映させていきます。



職場報告で課題が明らかに